

空の里だより

NPO法人地域福祉支援センター ちいさな手 第7号

- 2016年度 ちいさな手 回顧録
- ちいさな手と私
- ちいさな手のお仲間
- ちいさな手 スタッフ紹介
- コラム「風の言の葉」
- 時の旅 今昔

【第7号】

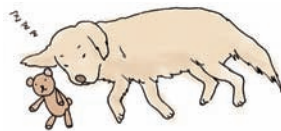
2017年3月31日 発行



2016年度

ちいさな手[🐾]回顧録

昨年8月末、十勝に甚大な被害をもたらした台風。そんな中、皆様からたくさんさんの救援物資を頂いたり、応援や励ましを頂きながら、私達ちいさな手は2016年度も元気に活動してまいりました！



5月
15日



新年度の始まりは、畑作業から！今泉運工さんに電牧を設置してもらい、光(耕)運機で畝切りしたのち、畑手の助っ人 額田看護師とさくら班長、そしてさくら班長の長男、計2.5人で芋を植えました。さくら班長の長男が大活躍でした！



5月
18日

2016年度
「ちいさな手研修」



とかち広域消防局新得消防署救急係から講師をお招きして「一般救急講習」を行いました。毎年行っていますが、忘れないように回復した研修に努めています。

5月
25日



「地域福祉の推進における社会福祉協議会の役割」というテーマで、光彦さんが学習会の講師を務めました。当日は、社協の職員が2つのグループに分かれてグループワークやグループ討議等をおこなって約1時間熱心に学習されました。

2016年度
「ちいさな手総会」



夜7時から、ちいさな手フリースペースで平成28年度定期総会が開かれました。総会終了後の歓談では、新人スタッフ小松 愛さんに向けた普段顔を合わせない会員の自己紹介の最中に、上杉会員の高校野球審判の話になり、ストライクコール実演の披露があり、終始にぎやかな会となりました。

7月
9日

9時～16時30分までの長時間にわたり、祥子理事長が北海道社会福祉士会「基礎研修Ⅲ」で意思決定支援の講義と演習を行いました。中には北見から来られた人もおり、熱心に且つ真剣にグループワーク等に取り組んでおられました。

7月
22日

今年度は天候不順のため、花の成長がおもわしくありませんでしたが、ピノキオが皆さんの目を和ませてくれていました。



12月 28日 **ちいさな手忘年会**



ボランティアの清水さん吉岡さん、美智生の川浪さんを加えてにぎやかに行いました。

恒例の節分行事

2月 3日



「鬼は外！ 福は内！」。今年も元気に豆をぶつけました。

9月 24日



北海道社会福祉士会十勝地区支部主催の「権利擁護セミナー」に、光彦さんの友人で日本社会福祉士会の理事でもあられる鹿嶋隆志さんに大分県からお越しいただぎ、成年後見制度の制度改正について講義をしていただきました。

第6回「手打ちそばを味わう会」

毎年恒例の「手打ちそばを味わう会」。打ち手は名人「新得そば商店」の吉岡さん！ 貴戸延之さんの解説も解りやすかったですね！



10月 15日

7月 27日

ちいさな手 内部研修開催



テーマは、新得町健康推進係 安達保健師による「感染症について」です。

8月 20日



新得町内在住の小野瀬さんの紹介で、障害者運動で全国的に有名な安積遊歩さんが突然訪ねてくださいました。

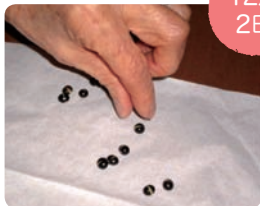
台風到来

8月 31日



深夜に十勝を襲った台風10号の被害は甚大でした。ちいさな手から50メートルほど行ったちいさな橋ですが、手前の土が流されて今も通行止めです。

12月 2日



今年度のちいさな手農園は不作でしたが、額田看護師さんが苦労して収穫してくれた黒豆は、とても甘くておいしかったです！

多くの皆さんから支援物資をいただきました。理事長ともどもお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ちいさな手と私



利用者 ^{さとう しやうり} 佐藤 勝利さん(16歳)



勝利さんが通う、北海道新得高等支援学校。木工科と家庭科があり、勝利さんは家庭科で学んでいる。

高校に通うことが夢だった。新得高校に高等支援学校が併設され、希望が叶い昨年4月に入学することができた。入学して大変だったのは通学方法だ。僕の家は南富良野町、狩勝峠を越え、車で40分の距離にある。朝は、仕事前の父や母が南富良野から新得まで送り届けてくれる。帰路はJRを使っていったのだが、昨年8月の台風被害で新得・落合駅間の運行がストップ。そのため、帯広の高校に転校の話が出たが、僕は今の学校がよかった。

通学のことですら困っていたら、十勝毎日新聞が僕のことを記事にしてくれた。すると記事を読んだJR職員さんの計らいで、帰りの新得・幾寅駅間をタクシーで代行してくれることになったのだ。おかげで転校せずに済んだ。本当にありがたい話だ。そうそう！ 忘れちゃいけないのが、学校から新得駅まで僕を運んでくれる、ちいさな手とかりかち工房さんの存在だ。ちいさな手には日中一時支援でもお世話になっている。祥子さんとも何でも話せるようになった。春から僕も2年生。支えてくれる皆に感謝しつつ、まだまだ学生生活を満喫しようと思う。



学校が早く終わった日は、日中一時支援を利用してちいさな手で休んでいる。



家庭科の授業で、ナブキンにスタンプを押した。



毎日南富良野から迎えに来てくれる、幾寅交通。



いつもお世話になっている、担任の岩田沙季先生。



月・金は学校から新得駅まで、ちいさな手が送迎。

訪問リハビリについて

訪問リハビリは、簡単にいうと利用者さんの自宅まで出向いてリハビリを行うことです。リハビリといっても単に運動を指導するだけではなく、対話をしながら生活全般を見てその人に何が必要かを判断し、目標を決めて一緒に行動していきます。また、退院後のフォロー以外にも、介護が必要な方やこれから介護が必要となってくる方にもできることを提案。最近では、社会参加も促しています。

「訪問リハビリテーション さくら新得」で訪問リハビリの仕事をしている村上さん。今から3年半前、当時ほとんどなじみのなかった訪問リハビリを新得町や鹿追・清水町方面に定着させ、ちいさな手の利用者さんもずいぶんお世話になってきた方です。村上さんはこのたび、新得町の担当を外れ帯広に配属されることに決まりました。これまでの感謝の意とエール込めて、彼の仕事をご紹介したいと思います。



3年半前、新得町に来てまず最初の仕事は、訪問リハビリとはどういうものかを皆さんに知ってもらうことでした。多くのケアマネジャーさんが訪問リハビリに対してまだまだ半信半疑だった中、清野さんご夫婦は真剣に耳を傾け私の話を聞いてくれたのを今でも覚えています。徐々に新得町で顔を知ってもらいニーズを拾っていく中で、訪問リハビリの必要性を多くの方に理解していただき、一昨年7月には新得事務所「さくら」が開設。西十勝エリアでこれまで延べ100名を超える方をリハビリさせていただくことができました。ちいさな手の利用者様で最初に関わらせていただいたのは、家に閉じこもりがちの50代男性の方でした。ゴルフをしたいという目標を立てリハビリを頑張り、念願のゴルフに光彦さんと3人でいった思い出があります。以来何名もの方と一緒に看てきましたが、清野さんご夫婦には本当にたくさん助けられました。新得町の担当を外れることとなり、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。この地での経験を活かして、帯広でも頑張ります！



村上さん、今までたくさんお世話になりました！
これからのご活躍を応援しています!! (清野)





関根章子さんのご主人悦朗さんは神奈川県の障がい者福祉施設で働いていたが、「人の基本は食へること、そして自然と向き合うことだ」と、北海道への移住を決意。新得町に入り、しいたけ生産を始めた。広島県出身の章子さんは、北海道を旅行中にそんな悦朗さんと出会い、恋に落ち結婚。共に原木しいたけを栽培し、しいたけ屋の事業を発展させた。

「『ちいさな手』立ち上げの際に、光彦さんから声がかかったんです」。清野家と以前から交流のあった関根夫婦は、ちいさな手応援隊として初期スタッフに加わることに。以来、しいたけ屋を営みながら週1回程ちいさな手を手伝う生活が続いた。しかし昨年、悦朗さんが他界。40年間続けてきたしいたけ屋を閉じ、ちいさな手の専属スタッフとなった。「働く場所があつてよかったです(笑)」と章子さん。「主人の母親が認知症になった時、主人の時も、光彦さんがケアマネージャーとして来てくれたり、ちいさな手には本当お世話になりました。しっかりとお返しをしなくっちゃ」。ご縁で繋がったこの場所で、精一杯働くつもりだ。

ちいさな手

スタッフ紹介



ヘルパー
せまね しろうこ
関根 章子 さん
広島県出身

ご主人の悦朗さんと
家族の写真。



4姉妹の長女が結婚した際にもらった、写真入り壁飾り。

壁に飾られた孫の作品。
毎日これを見て癒されている。



自宅前のかまくらで光彦さんと。かまくらには「welcome back 2017 2月24日」の文字が！

ガゼ 風の言の葉ことば

ち いさな手2代目看板犬「絵夢^{エム}」の調子が悪く、この原稿を書いている私の横で静かに眠っています。おそろく、この7号が皆様のお手元に届く頃には、先代の「空里^{くうり}」の待つ「虹の橋」が架る広い草原に逝っていることでしょう。

絵夢が「ちいさな手」にやってきましたのは、2005年の秋でした。先代の空里が4歳を過ぎ、多頭飼いいいかなと思いはじめた頃に北海道盲導犬センターの行っているキャリアアチェンジ（＝盲導犬に適さないと判断された犬の譲渡）ボランティアという制度を知り、応募したのがきっかけでした。以来11年と数か月、特に空里が亡くなった後の約6年間、ちいさな手に関わる様々な人達の癒し犬として立派に看板を背負ってくれておりました。

今回のことがあり、盲導犬センターから頂いた絵夢の紹介文を読み返してみると、「キャリアアチェンジの理由：昨年（04年）の10月から訓練をしておりましたが、落ち着きに欠けるところからキャリアアチェンジとしました」と記載がありましたが、キャリアアチェンジと言えば聞こえはいいですが、要は、盲導犬不適格「『落第犬』として第2の犬生をちいさな手で送ることを余儀無くされたのです。

ちいさな手に来た頃の絵夢は、叱るような大きな声に敏感で、申し訳なさそうに下を向いて悲しそうな顔をする子でし

た。天真爛漫な先代の空里とは違い、少しおどおどとして人の目を窺うようなそぶりだが、盲導犬としての訓練の厳しさを想像させ、少しかわいそうでもありません。そんな表情が徐々に和んできたのは一年ぐらい経ってからでしょうか。何をすることも先代の空里の後を追ひ、甘えるような仕草も見せ、何より食いしん坊の片りんが前面に出てくるまでにはだいぶ時間を要しました。

昨年10月に13歳を迎え、足腰も弱つたなあ〜と感じ、これからはあんまり無理させられないなと思っていた矢先、急性腎不全という病名が告げられ、食事が摂れなくなり、今は水しか飲めなくなりました。大好きなリンゴやトマト、イチゴ等も食べられません。

獣医師に相談をして、点滴や給餌等を試みましたが症状の改善は望めない為、今は静かに天命を受け入れることにしました。

この数日、昼夜の看病の合間、寝顔を見ながら「もう頑張らなくてもいいよ」と思ったら、ちいさな手にやって来た時のことが思い出されて涙が溢れることが度々ありました。

絵夢：「ちいさな手の看板犬としての仕事はどうだった？」「ここに来て幸せだった？」必ずまた皆で会えるから「虹の橋」の架る草原で空里と一緒に待っていてね。ごくろうさま。そしてありがとう。



(3月27日永眠。享年13歳)



ちいさな手理事長
清野
祥子
さん

52年後

母親手づくりのワンピースを着て、幼稚園の卒業証書を持つこの少女はナント！ちいさな手理事長、清野祥子6歳の時。



今はワンピースを作ってくれた母親に似てきました。52年が経過し、立派に理事長を務めています(笑)。



今昔

時の旅
いまむかし

過去があるから今があり、
今があるから未来がある。
愛燦燦とふりそそぐ
とっておきの一枚をお届けします。



利用者
大内
チウ
さん

約30年後

写真は、国鉄の機関区で働いていたご主人の義一さんと、国鉄のお別れ会での1枚。(国鉄からJRに移行したのは昭和62年)



男2人女2人の子宝に恵まれたチウさん。
愛らしい笑顔で、末っ子の息子さんとバシャリ！



特定非営利活動(NPO)法人
地域福祉支援センター

「ちいさな手」



〒081-0038 北海道上川郡新得町西3線50番地15
TEL 0156-69-5560 FAX 0156-69-5561
相談専用 0156-69-5570

□E-mail nposcswc@chive.ocn.ne.jp □HP <http://npochiisanate.jimdo.com/>